

DDX-sub-sub W. G. 会合議事録

1. 日 時 昭和58年6月16日(木) 13:30~17:00
2. 場 所 原研 東海研 研究2棟335号室
3. 出席者 7名(敬称略, 順不同)
中沢, 井口(東大), 菊池, 長谷川, 山野(原研), 中田(川重)
南(富士通)

4. 議 事

- (1) 前回議事録確認等
- (2) FAIR-DDX コードの検証について

(2)-1 エネルギー群構造に関して

FAIR-DDX コードを用いてDDX ライブラリーを作成し, さらに DDX-PLOT プログラムで処理を行なう際に, エネルギー群構造に依存して, 結果が異なる原因について検討がなされた。

反応 Typeごとの結果の比較から, 非弾性散乱と $(n \cdot 2n)$ 反応の寄与の割合に差が生じていることがわかり, 群構造および角度メッシュの内挿における感度をパラメトリックに変化させて FAIR-DDX および DDX-PLOT の精度の検証を行なうこととなった。

(2)-2 エネルギー分解能に関して

JENDL-2 あるいは ENDF/B-M から FAIR-DDX を用いて計算された DDX の結果と実験値との比較する作業で必要となるエネルギー分解能の選び方について議論された。

一般に, エネルギー分解能は, 各々の実験体系に依存するため, 試行錯誤的に決定するのが普通であるが, 今後の大量の比較作業のルーチン化を図るため, 何らかの一定の手順に従って, (例えば, 弾性散乱ピークの形を合わせる等) 分解能を選ぶ方針が決められた。

(3) その他

- (3)-1 DDX 比較作業をまとめるにあたって, FAIR-DDX コード (および DDX-PLOT) のマニュアル化, プログラム内容の簡略化について検

討された。

- (3)-2 東北大グループなど他のグループからのDDX実験データ収集に関して、EXFORフォーマット類似の統一様式でデータファイルの作成を依頼する旨、報告された。